

# I 大学の現況及び特徴

## 1 現況

(1) 大学名 尾道大学

(2) 所在地 広島県尾道市久山田町 1600 番地

(3) 学部等の構成

学部：経済情報学部（経済情報学科）

芸術文化学部（日本文学科、美術学科）

研究科：経済情報研究科

日本文学研究科

美術研究科

附置研究所：なし

関連施設：附属図書館、地域総合センター、情報

処理研究センター、進路支援センター

(4) 学生数及び教員数（平成 19 年 5 月 1 日）

学生数：学部 1,358 名、大学院 42 名

教員数：57 名

## 2 特徴（沿革）

本学は、開校以来 50 年の歴史を持つ尾道短期大学を基礎として、平成 13 年 4 月、2 学部 3 学科の 4 年制大学として出発した。

尾道市は古くから瀬戸内における要衝の地として栄えてきた。自然環境に恵まれ、独自の産業が育ち、歴史的に経済活動が盛んであった。また、山と海の景観美に加え、千年を越える神社仏閣があり、貴重な古文化財や近現代作家の作品にいたる多くの文化遺産がある。

地域におけるこうした経済的・文化的背景の下に、昭和 21 年 7 月、市立の女子専門学校が創設され、その後尾道短期大学へ転換、中四国の経済発展と呼応して、多くの人材を輩出してきた。

尾道短期大学は、当初の国文科に加えて経済科、さらには、経営情報学科の新設と、順次規模を拡大し、卒業生 1 万 9 千人余を数え、全国屈指の歴史と規模を誇る公立短期大学として知られた。

こうした伝統ある短期大学の学科、教育内容を生かしながら、さらに発展させるため、またかねて地域から強い要望のある美術学科を加え、平成 13 年 4 月、現在の形である 2 学部 3 学科の 4 年制大学への改組転換が行われた。

また、平成 17 年 4 月には、大学院を開設、21 世紀の時代的要請に対応できる専門的知識、高い見識と実践的能力を兼ね備えた人材の育成を目指している。

(特徴)

(1) 伝統に根ざすユニークな学部・学科構成

本学は、経済情報学部と芸術文化学部の二つの学部から構成される。これは、自然と文化に恵まれた尾道の風土を反映しつつ、また中国地域の産業界に有為な人材を多く送り出した短期大学の伝統を生かしたものであり、全国的にもユニークな学部構成である。

教養課程において、各学部の専門科目を他の学部学生が受講できる「開放科目」の制度や両学部（3 学科）の学生の交流を通じ、幅広い感性と知識・教養、技術を吸収した高度な人材育成が期待される。

(2) 地域との交流・貢献

本学は「国際芸術文化都市」を標榜する尾道市立の大学として、当初から市政、経済、芸術・文化への貢献が期待されており、開学以来、地域貢献が継続的に行われている。市民祭（尾道みなと祭り etc.）への学生の参加と協力、市主催の展覧会の審査、絵画やコンピューターの実技講習等、その活動は極めて多彩である。また、平成 18 年度からは、地域総合センター主催により、「尾道学講座」を開催、大学の専門的研究と市民との交流に力をいれており、名実ともにコミュニティカレッジを目指している。

(3) 経済情報学部、経済情報研究科

本学部と研究科は、その沿革からも、経済、経営、情報の 3 分野をあわせて学ぶことに最大の特徴がある。

少子高齢社会、経済のグローバル化の中で、経済・経営の知識を学ぶだけではなく、情報技術の活用により、課題を具体的、実践的に解決する能力が求められている。カリキュラムでは、専門基礎科目、共通専門科目、主要専門科目において、上記 3 分野が配置され、各分野の知識・技術の複合的相乗効果が期待されており、また、実践的な思考を育む狙いがある。学生は将来の進路に応じ、濃淡のある授業選択を行うことが出来る。

(4) 芸術文化学部（日本文学科、美術学科）、日本文学研究科、美術研究科

尾道の文学と美術の歴史を踏まえ、それぞれの分野における専門的知識、能力を備えた人材の育成を目指している。また、本学が創作活動の拠点としても、西日本における芸術文化振興への貢献が期待されている。